

大阪市立科学館スペシャルナイト

「ほし×こえ」～声優星空プラネタリウム朗読会～開催報告

江越 航*

概要

2017年6月17日・18日、当館では「スペシャルナイト『ほし×こえ』～声優星空プラネタリウム朗読会～」と題したイベントを開催した。これは声優による朗読と、学芸員による星空解説を合わせた内容のプラネタリウムである。演技のプロである声優とのコラボレーションにより、来館者により印象に残る形で、天文学の普及教育を試みた。本稿ではこのイベント実施にあたっての準備事項、およびプログラムの内容について報告する。

1. はじめに

当館では、2017年6月17日・18日の夕方、プラネタリウムホールにて「スペシャルナイト『ほし×こえ』～声優星空プラネタリウム朗読会～」と題したイベントを開催した。

本プログラムは、声優による朗読と、学芸員による星空解説を合わせた内容のプラネタリウムである。声の俳優である声優は演技のプロであり、その朗読は感情表現が豊かで心に訴えるものがある。一方、プラネタリウムの学芸員は、天文学の普及活動を専門としている。プラネタリウムの解説を、声優とのコラボレーションという形で実施することにより、来館者により印象に残る形で、天文学の話聞いてもらえることが期待できる。

また、声優には多くのファンがいることから、普段、プラネタリウムに来ない客層にも、科学館に足を運んでもらうきっかけになる。

このように、このプログラムでは、声優による朗読と学芸員のコラボレーションという、目新しい形で天文学の普及教育を目指したものである。

本稿では今回実施したスペシャルナイトの概要、および実施にあたっての準備事項、プログラムの内容について報告する。



写真1 イベントのポスター

2. 実施までの経緯

本イベントは、声優プロダクションの(株)AIR AGENCY から話をいただいて実現したものである。同社は同名のイベントを、各地のプラネタリウム館にて実施しており、今回のイベントの運営については既に実績を持っていた。

一方、当館で実施するにあたっては、シナリオに関して天文学的な内容を盛り込むとともに、単なる朗読会でなく、学芸員も参加してプラネタリウムの投影を含む内容とするよう、条件をつけた。

*大阪市立科学館学芸グループ
e-mail: egoshi@sci-museum.jp

表 1 は開催の打診があつてから、実際のイベント実施までの経過を示している。

当館にて実施することを決めてから、日程の確定までは9か月ほどの期間を要している。これは、開催日を土日として、当館でプラネタリウムホールが使用可能な日と、出演する声優のスケジュールの調整に時間を要したためである。

この間に、近隣のプラネタリウムである東大阪市立児童文化スポーツセンター(ドリーム 21)でも開催されたことから、実際の開催要領をみて、あらかじめ懸案事項の確認を行うことができた。

表 1 実施までの経過

日付	内容
2015/11	実施の打診
2016/3	実施決定・スケジュール調整開始
2016/7/24	ドリーム 21 実施見学
2016/12/16	実施日程決定
2017/4/23	予告開始
2017/5/18	ホームページ詳細案内
2017/5/23-28	チケット先行抽選受付
2017/6/4	一般販売
2017/6/17-18	イベント当日

3. プログラムの概要

公演の実施要項は、次の通りである。

- ・ 2017年6月17日(土)
【第一部】18:10～19:00(開場 17:50)
【第二部】19:30～20:20(開場 19:10)
出演:遊佐浩二×吉野裕行
- ・ 2017年6月18日(日)
19:10～20:00(開場 18:50)
出演:石田彰×吉野裕行
- ・ 参加費:3,500円(全席指定席)
- ・ チケット:チケット販売サイト「Confetti(カンフェティ)」にてインターネット販売
- ・ 先行抽選 5月23日(火)16:00～5月28日(日)23:59
- ・ 一般発売:6月4日(日)12:00～
(先行抽選で満席にならなかった場合)

当日のスケジュールは、表 2 の要領で実施した。6/17 は土曜日のため、通常営業終了後、入れ替え制で同じ内容を二回開催した。また 6/18 は日曜日で、プラネタリウムの最終投影が終了するのが 17:45 であることから、一回だけの開催とした。

いずれも、プラネタリウム終了の最終投影が終了し

てから、開場までは1時間程度で、この間に会場準備と、声優さんのリハーサルを行っている。朗読の途中で、プラネタリウムの映像を投影する場面もあるが、声優さんがその映像を見るのは、このリハーサルが初見となる。

表 2 スペシャルナイトスケジュール

時刻	内容(6/17)	時刻	内容(6/18)
16:10	物販(～16:40)	17:10	物販(～17:40)
17:50	開場	18:50	開場
18:10	【第一部】開演	19:10	開演
19:00	第一部終了 物販再開	20:00	終了 物販再開
19:10	開場	20:30	物販終了
19:30	【第二部】開演		
20:20	第二部終了		
21:00	物販終了		

4. 朗読会の内容

朗読会は、主にゲストとなる2名の声優がステージでシナリオを読んで演じる、という形式が中心となる。その中に、学芸員も参加の場面を作ってもらうように、シナリオライターに依頼した。

完成したストーリーは、2名の声優の役柄がプラネタリウムのスタッフと来館者という想定でやりとりが進んでいき、この中に当館学芸員がスタッフの同僚として参加する、というものである。

当館学芸員は、ストーリーの最初にプラネタリウムの解説を行う場面として登場し、朗読会の途中でも、製作中の番組を上映する、という名目で登場した。

実際の学芸員が演じた内容は、以下のようなものである。

表 3 最初の場面での内容

88 星座
星座は今から 5000 年ほど前に誕生し、現在の私たちも同じ星座を使っている。また、星座は天文学においても、星の住所の役割を果たしている。
大阪の空 夜明けに
大阪の街中に戻り、徐々に夜明けに移行。 七夕に近い時期であり、大阪の星空で織姫、彦星が見えている。

表 4 途中の場面での内容

満天の星空
夜空にはまるで無数の星があるように見えるが、私たちが見ている星は、宇宙の中ではほんの一部に過ぎない

星の海の中を宇宙旅行
宇宙空間を旅してみると、宇宙は奥行きを持つ、3次元的に広がった空間であることが分かる。
星の最後・超新星爆発
これらの星も、永遠に輝き続けるわけではない。長い時間の果てに、星もやがて最後を迎える。星の中には、超新星爆発という大爆発を起こすものもある。
ブラックホール
星が爆発した後、その中心にブラックホールができることがある。ブラックホールはとても強い重力で、すべてのものを吸い込んでしまう。
地球から見た星空
今、見ている星空だけが宇宙のすべてではない。宇宙には、まだまだ謎が隠されている。

このような内容を学芸員が解説することで、プラネタリウムの機能を活かした、天文学的な内容を盛り込んだ投影を行った。



写真2 イベントの様子

5. 音響

イベントの演出にあたって、ドームに投影する映像は、通常のプラネタリウム投影機から出力したが、音響に関しては、持ち込み PA 機器と接続し、ドームのスピーカーから出力する設定を行った。

外部からの入力は、2名の声優がステージにて朗読するマイク 2 チャンネル分で、ステージコンセントからコンソールに設置した持ち込み PA 機器を経由し、ドームのスピーカーへ出力した。持ち込み PA の音響からは、2名の声優の朗読のほか、効果音の出力も行っている。

なおステージには台本用照明も持ち込まれたが、この調光も、マイクの回線を通じて遠隔操作した。

プラネタリウムの解説の際、通常マイクの音声は、前方のセンターと左右のスピーカーから出す設定になっている。これを当館学芸員が途中で割り込む場面に限

り、音響ミキサーのルーティング設定を切り替えて、リア側の左右のスピーカーからの出力するようにした。こうすることにより、突然、後ろから声が聞こえるような効果を演出した。

6. 運営

今回の公演の実施にあたっては、(株)AIR AGENCY からのスタッフ 4 名のほか、出演者の声優 2 名、メイク、近隣の声優学校の学生 11 名が来て、運営にあたった。当館スタッフは、プラネタリウム機器操作以外では、主に館内案内業務を中心に担当した。

以下、今回の運営の際の特徴的な事項について述べる。

6-1. チケット販売

今回のチケット販売は、チケット販売サイト Confetti (カンフェティ)を通して行った。

表 1 に示す通り、チケットの販売はまず、抽選受付により販売したのち、残りの席を先着順で一般販売した。

チケット販売の詳細を発表したのは 5/18 と、公演直近の一个月前となったが、人気声優の朗読会ということで、抽選倍率も高くなり、一般販売はほぼ瞬時に売り切れとなった。

また、チケットが高価転売される恐れも考えられた。そのため、チケットは第三者への販売ないし譲渡を禁止とし、入場時に身分証明書と、チケット券面に印字した購入者の名前が一致することを確認する措置を行った。



写真3 入場時の本人確認

6-2. 座席指定

通常科学館でのプラネタリウムの投影は、すべて自由席で実施している。係員による座席案内も、自由席であることを前提に満席対応を行っており、座席指定で案内した実績がない。

しかし今回の公演は、座席指定で実施したいとの意向であった。事前に近隣のドリーム 21 での開催を見学

した際には、座席指定の状況も確認し、その結果当館でも可能と判断して、今回は座席指定で実施することとした。

チケット販売サイトでの販売は、座席表を提出すれば、指定席の発券は可能である。

当館の座席番号は、座席の足の部分に記載されている。来館者からは分かりにくい位置になるので、リハーサルの時間帯に、すべての座席の背もたれ上部に、座席番号を記載したシールを添付した。さらに、ホワイエ等にもホール内の座席表を貼りだした。

この結果、指定席への着席に関しては、特にトラブルなくスムーズに実施することができた。



写真4 座席番号を添付した椅子

6-3. 物販

本公演にあたって、クリアファイル、トートバッグ、マスキングテープ等のオリジナルグッズの販売も行った。

販売場所は研修室を使用したのが、部屋一杯となる長蛇の列となった。しかし、あらかじめ運営スタッフが行列の並び方を決定し、人員を配置して行列整理を行ったため、整然と販売を実施した。



写真5 物販の際の行列

7. 来館者の反応

今回の公演の来館者は、声優さんを実際に見たいという目的の方ということになるが、ほとんど女性客ばかりで、こうした層に対しては、声優さんは非常に大きな力があることが伺えた。

朗読後のフリートークの時間に、声優さんに来館者に対して、どのくらいの方が以前科学館に来たことがあるかを問うてもらったところ、およそ8割ほどが来たことがあるという結果だった。

今回の客層は、行列の待ち時間も公演中も、非常に静かという、際立った特徴が見られた。一方、SNS上には、大量の感想が投稿されていた。大部分は声優さんの声を生で聞いた感激の声であった。プラネタリウム自体の感想も、星空の映像に関してはほぼ好意的であった。学芸員が途中で声優さんの会話の中に入ることに對しても、面白い試みという反応であり、特に否定的な声は見られなかった。こうしたことから、声優さん目当ての来館者に対して、ある程度自然な形で、天文学の話聞いてもらえたと感じている。

8. おわりに

本プログラムは、声優プロダクションより話をいただいたことで実現したもので、声優による朗読と、学芸員による星空解説を合わせた目新しい内容のプラネタリウムである。来館者により印象に残る形で試みた天文学の普及教育については、ある程度の目的は果たせたと考えられる。

ただし、イベントとしては商業的色彩が強かったともいえる。単に声優さんが朗読を行うだけでなく、プラネタリウムの星空、映像を効果的に使用して、天文学を伝えることにこだわったが、反面声優さんを見に来た来館者にとっては、余計なものであったともいえる。

非常に多くのお客さんに来てもらえる魅力的なコンテンツであるが、今後、同様のイベントをどのような形でやっていくのが望ましいのかは、当館の目的と照らしてさらに考えていく必要があると感じている。

謝辞

今回のスペシャルナイトを提案、企画、協力いただいた(株)AIR AGENCYの関係各位、および運営の手伝いをいただいた学生の皆さんに謝意を表します。